【資料①】令和4年度　神戸市立　井吹西小　学校評価報告書

項	教育目標	重点目標（努力目標）	具体的な取組	取組状況・成果・課題	教員の自己評価（4点満点）	学校関係者からいただいた評価・意見等	改善策
心豊かにたくましく生きる神戸の子供を育む	ひびく心　かがやく瞳　きり拓く力	ひびく心を持たせる	やさしくていねいな指導	朝の会や係活動などの特別活動での個人の役割の明確化と評価の意識化ができた。	3.3	全学年を通じて元気で楽しく学習できていると思います。児童が各々の役割を自覚し分担しながら取り組んでいる様子がうかがえました（低学年から中・高学年になるにつれ顕著）。	自己承認感を高め、児童に寄り添う姿勢を継続する。
			個別最適な指導	個人で取り組む学習活動での資料の提示や声掛けによる支援ができた	3.1	・子ども同士で助け合う事が、個の力も伸びる事に繋がっているように感じました。・次年度からの教育課程においても重要視される項目であることから、研究を重ねていただきたい。	GIGA端末とモジュール授業を利活用して研究を進める。
			道徳や防災学習を通じて他者を思いやる姿勢作り	地域の方々、西消防署、西区役所まちづくり課とタイアップして深めることができた。	3.1	新たなチャレンジに拍手（6年生の防災学習）です。この経験は防災のみならず、これから各人が遭遇する人生の様々なシーンで少なからず役立つものと思います。	総合、生活など教科横断的なリンクを念頭にカリキュラムマネジメントで一層の効果的な実施を目指す。
		かがやく瞳を持たせる	行事を通して成長させる指導	学校全体での行事はなかったが、学年、学級単位の行事が増やせた	3.2	・時代に合ったスタイルで実施されていました。成果を発揮できる場があると、自信に繋がると思うので、行事は大切だと思います。・制約（コロナ感染防止）の中、工夫を凝らしながら学校行事に取り組まれていたと思います。	今年度の行事運営を生かせる部分は積極的に行う。軽減負担のため
			地域を大切にする姿勢の育成	児童は地域からの恩恵を十分理解している。教員からの発信が不十分であったと考える。	2.7	・コロナ以前から地域の行事などを通じて子どもたちと交流できる機会があったので、子供たちにとっても地域住民にとっても「ふれあい交流財産」として残るものと思います。・「昔あそび」や「夏休み木工教室」等を通じて地域の子供達と、さらなる交流を計りたい。出来れば地域の防災訓練にも参加してもらいたいと思っています。「教員からの発信が不十分…」教員の方はこの地域の住民ではないので難しいかも。ふれまちや青少協との連携を、もっと日常化できたらと思います。・与えられるのではなく、与える立場にならないと地域を大切にする心、姿勢は育たない。 地域と自分の関わりを考えさせてはどうだろうか。以前は地域の人を学校に招待したり、震災の集いでホスト役をしたり、と様々な活動があった。時間がないから、と言うのではなく、時間は作るものと、考えをシフトしてほしい。子どもたちの生活にはバス、地下鉄などの公共機関や、各店舗での利用者でもある。その点からでも地域との関わりを考えさせられる。	働き方の観点から教員が直接参加することが難しいが、よみきかせや昔遊び等への理解と有効活用を促す。
			いじめを許さない心の育成	毎学期のいじめアンケート、連絡ノートなどにしっかりアンテナをはり、すばやい初期対応もできた。	3.3	・子どもだからこそおこる受け取り方の違い、考えの違いがトラブルになる事もあると思います。話す事が大切で、先生はよくお話を聞いてくださっていると思います。・今後もよろしくお願いします。	現在の意識の高さが下がらないようにするとともに、特別支援の観点も加えて指導する。
		きり拓く力を持たせる	元気カードによる自主性を育む指導	生活リズムの確立など自主規律の育成が期待されたが運用を職員間でも周知できなかった。	2.6	放課後や休日に公園で遊んでいる子供たちが少ない。友達と一緒に公園で遊ぶことで体力づくりに励んで欲しい。・元気カードの仕様が、中高学年用として面白くない。低学年ぽい。記入していて達成感が無い。折線グラフにして一眼で分かるようにしてはどうだろうか。子どもは大人びた仕様を好む。	全国学力学習状況調査で分かった課題である児童の体力・運動能力の向上を、体育の授業を中心に図る。
			主体的対話的で深い学びによる学力の伸長	アンケートでの対応だけでなく、ささいな児童の変化についての連絡が盛んにおこなわれている。	3.1	・クラスをまとめて学習を一定ラインまで保つのは難しい事だと思います。ですが、先生方が一生懸命頑張ってくださっている様子は伝わります。・これからも社会では、この観点が求められる。授業の研究をしっかりして取り組んでほしい。	職員研修、校内授業研修により、算数15分モジュールの活用と合わせ、研究を進める。
			異学年交流での成長	集会がオンラインのため各教室単独での参加になるなど、参集型の取り組みの欠如が影響した。	2.5	地域のボランティア活動（老人会のお年寄りとの公園などのゴミ回収）への参加を呼びかけたい。地域の行事にすることで異学年交流もできるのではないかと思います。・「交流」することが難しい3年間でしたが、異学年の「先輩」「後輩」たちを思う気持ちは育っていたと思います。卒業式での飾り物、新入生に向けた飾り物を一所懸命作成している姿に、そう思いました。	運動場での集会や行事での交流は、自尊心向上も期待されるため、積極的に進める方針である。
	教職員の資質向上	児童理解		特別支援の視点に立った支援方法も研修が進んでいる。	3.3	・先生により、差があると感じました。・支援員としての関わりも続けていきたいと思います。	学年打合せによる研修時間を充実させる。学年チームにより複数指導を引き続き推進する。
		学級経営		OJTを中心に教師間での意見交流の場が増えてきた。	3.2	授業を観てないのでなんとも言えないが、活気がある学級の授業は上手くされている。学級崩壊している学級は授業に問題がある。上手い授業を真似するのもいい。	学年打合せによる研修時間を充実させる。学年チームにより複数指導を引き続き推進する。
		授業研究		毎週の学年打合せを中心に授業検討を行っている。今年度は教科担当による授業も行った。	2.8	先生方が授業に集中できる環境づくり。地域として何ができるのか？地域と先生方が子供たちのために共に出来ることを共有したいと思います。	学年打合せによる研修時間を充実させる。評価および個別最適な学びについて次年度研修を行う。
安全・安心で楽しい学校を築き、地域と共に子供を支える	いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組（いじめ問題対策委員会）			毎月の報告会だけでなく事案発生から対応・終結までの流れを組織で動けた。	3.3	・早期対応、話し合い、しっかりしていただいていたように感じました。・学校のみならず地域ぐるみで感度の良いアンテナが求められるところです。	通常の児童観察や保護者との連携を引き続き実施していく。
	業務改善・働き方改革（在校時間の削減・効果的な有給休暇の取得			教材注文時のオンライン化、行事アンケートのFORMS利用などICTの活用で事務処理時間を縮減した。	3.1	・先生方の現場のご意見がしっかり聞いていただけて、改善されますように。・業務改善・働き方改革にも限界があるのではないでしょうか。教員の配置基準の見直しが必要ではないでしょうか。	令和の日本型教育の方針に沿い、授業時間の適正化も踏まえて7時間45分の勤務時間の有効活用を図る。
	新型コロナウイルス感染症関連			養護教諭発信の校内体制の徹底ができた。	3.6	・養護の先生からの発信情報は分かりやすく、保護者、子どもにも寄り添いながらも、きちんと対策が練られた内容でした。・大変なご苦労があったことと思います。（今も継続していますが）感謝しております。	5類への引き下げを受けて、マスク着用の有無、感染発生時の対応などを養護教諭を中心に確認していく。
	「すぐーる」の活用、ホームページにおける情報発信			すぐーるは平時の欠席連絡やコロナ・インフルエンザ・大雪などの緊時にも活用でき、ホームページは1日に一回の発信ができている。	3.4	ホームページはほぼ毎日更新されているので、特別な行事以外の穏やかな日常も知ることができて、ぜひ地域のみなさんに見てもらえたら良いなぁと思います。・すぐーるは行事の当日連絡などにも活用されていて、分かりやすかったです。ホームページも、見るのが楽しみなほど充実していました。	すぐーるは定着しており、今後も活用を進めていく。
	学校運営協議会との連携			安全登下校指導や木工教室・防災訓練などで、地域の取り組みを児童にフィードバックできている。	3.4	・学校にも地域にも過重負担とならないような取り組みが継続して行えればよいと思います。・地域の楽しいイベント参加型(例：木工教室)の交流だけでなく、ごく日常の声掛けなどで「つながっている」ことを発信していきたいと思います。	学校のワンオペに陥らないよう、開かれた教育活動を推進する。
	⑥学校生活のルールの見直し			児童の委員会および職員の担当チームによる見直しを行った。	3.3	・意見が反映され、改善されていくのは、学校が楽しく、快適に過ごせるようになる事に大切だと思います。・児童の主体性を育む素晴らしい取り組みだと思います。	毎年、定期的に行うので、ルーティーンの確立を目指す。